

今日のみことば

□ 8月5日(日) 歴代誌下 22章

アハズヤ王には彼を助ける顧問がいた。しかし彼らは邪悪であり王を破滅に導きました。助言を求めるときは注意深く聞き神のみ言葉に聞くことです(テモナー5:21)」

□ 8月6日(月) 歴代誌下 23章

王母アタルヤはアハズヤの死後、エルサレムの統治権を手中にするや近親を皆殺しにて権力を強化した。神は勇敢な一婦人によってアハズヤの子ヨアシュを救い出された。

□ 8月7日(火) 歴代誌下 24章

エホヤダの感化のもとでヨアシュは王としてのよい出発をした。この祭司の死後、健全な影響が少なくなり、墮落して不名誉な失敗と暗殺で終わりをとげる。

□ 8月8日(水) 歴代誌下 25章

アマツヤ王は国内に外国の神々を持ち込みました。彼の高慢は、無謀にも強力なイスラエルに挑戦したが、結果は敗北でした。彼は陰謀によって死に至りました。

□ 8月9日(木) 歴代誌下 26章

強力なウジヤ王はよい出発をしました。しかし彼以前やその後の善王と同様に、権力と成功が彼の身を破滅させました。見えない罪の汚れが、神の前にふさわしくない者となりました。

□ 8月10日(金) 歴代誌下 27章

ヨタム王は正しい道から踏みはずす行いはしなかった。すべての計画について主の導きに服従しました。主こそ「彼の神」であることを知り自己訓練に励みました。

□ 8月11日(土) 歴代誌下 28章

ユダの諸王のほとんどは「主の目にかなうことを行った」がアハズ王は、根っからの悪王で「イスラエルの王たちの道に歩み」偶像を造り、これを拝しました。

ろ ば No. 1879
2018年 8月 5日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

ロマ 6:23

罪の支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠のいのちです

「神の賜物は、わたしたちの主イエス・キリストによる永遠のいのちです。」これが「福音」。私たちに与えられた最上の知らせです。この手紙を通して、自分が何者であるかを、神に対して罪人である私を、しっかりと確認させていただくことだと語りました。

パウロはそのことを前提に「福音」を語ります。それをしっかりと踏まえたうえで、主イエスが何を私のためにしてくださったか。何を私たちは主イエスからうれしい知らせを聞かせていただいたか、聞かせていただくのです。

私はこの暑さが続く8月に、それを越えた神の愛の熱さに覆いつくされた日々を、過ごしたいと願っています。いまヨハネの手紙を読んでもいただきました。「わたしたちは、わたしたちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛にとどまる人は、神のうちにとどまり、神もその人の内にとどまってください。」(ヨハネ4:16)

「神は愛です。」私たちの心からの信仰の告白です。私はしっかりとそこに生きさせていただきたいと願いながら、ヨブの苦悩に思いを寄せさせられる日々があります。あまりにも頻りに襲ってくる災害の中で、神さま、どこにおいでですかと問いたくなることしばしばです。ダビデは「いつまで、主よ／わたしを忘れておられるのか。いつまで、御顔をわたしから隠

しておられるのか。いつまで、わたしの魂は思い煩い／日々の嘆きが心を去らないのか。いつまで、敵はわたしに向かって誇るのか。」(詩編13:2-3)と祈りました。

私たちは、その試練をしっかり受け止め、人間は様々知恵を限りの手を尽くしていますが、少しもそれらは有効に働きません。何がそれを阻害しているか、私たちは知っているのではありませんか。今日の世界の動向はそのことをはっきりと私たち告げているのです。今日までの歴史もそれを私たちに語りますイエスが「わたしがあなた方を愛したように、あなたがたも互いに愛しなさい」(ヨハ13:34)と告げられた言葉が生きていないということです。

罪に死に、キリストに生きる。パウロが言葉を尽くして私たちに迫る言葉です。私たちがしっかり世界に発信しなければならない言葉です。すべてのクリスチャンが、本当にいま、この言葉を発しなければ世界は滅びます。この小さな私の一言で世界が動くはずもなかるう、と言ってはならないのです。「蟻の穴から堤の崩れ」とのことわざがあります。必ず世界はここから崩れ去るのです。

しかし神は、それを阻止してくださるために、イエス・キリストを送られたのです。どこまで私たちはそれを受け止めることが出来ているのでしょうか。「このように、あなたがたも自分は罪に対して死んでいるが、キリスト・イエスに結ばれて、神に対して生きているのだと考えなさい」(ロ6:11)とパウロは告げてくれます。しっかり主イエス・キリストを見あげることです。そのとき、私たちは「罪が支払う報酬は死です。しかし、神の賜物はわたしたちの主イエス・キリストによる永遠のいのちです」と喜びを言葉として口にします。

聖書の学び・祈祷会》

創世記23:1-20

サラの埋葬

愛妻サラの死は、アブラハムにとって悲しみでした。その時アブラハムは130歳、長い結婚生活を通してともに成長してきました。共にウルを出て、ハランでは父テラの死に会い、ともにエジプトに下り、ともに神の約束を語り、ハガルについては共に過ちを犯し、ともにその結果について苦しみ、イサクの誕生を喜び、イサクを捧げることについてもともに心を痛めました。あの愛妻サラは今ここにはいません。

アブラハムはサラのために墓地を購入することにしました。アブラハムは土地の所有者と丁寧に交渉して、サラのために墓地を購入しました。アブラハムは寄留者でしたが、彼の評判は非の打ちどころがありませんでした。ヘテの人エフロンもそれに応えました。人は必ず死にます。そのために私たちは十分に整えられているでしょうか。



Read God's Word.

次週の聖書・説教	ロマ7:4-25 善をなそうとする意志
----------	---------------------